

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	大正区
学 校 名	大阪市立南恩加島小学校
学校長名	樋口 和弘

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南恩加島小学校では、第6学年 41名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語科・算数科ともに大阪市平均・全国平均をそれぞれ下回っている。とはいえ、全国平均を1とするとどれもほぼ1に近く、平均に近づけることができています。

平均無解答率は、国語科・算数科ともに、大阪市平均・全国平均をよりそれぞれ少なく、何とか解答しようとする態度が見られた。

国語科・算数科ともに、記述式の問題に対する平均正答率が低い。

質問紙より、「朝食を食べている(92.7%)」「同じくらいの時刻に寝ている(87.8%)」「同じくらいの時間に起きている(92.7%)」「自分には良いところがある(85.3%)」「将来の夢や目標をもっている(82.9%)」「学校に行くのは楽しい(92.7%)」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている(83%)」に肯定的な回答をする児童は、市・全国平均を上回っている。「人が困っているときは進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」における肯定的回答をする児童は100%である。

「学校の授業以外の普段の1日の学習時間が1時間より少ない」児童が65.9%で、市平均より15.3ポイント、全国平均より23ポイント下回っている。「読書が好き」に肯定的回答をする児童は58.5%で、市平均より11.7ポイント、全国平均より13.3ポイント、「学校の授業以外の普段の読書時間が1日あたり30分より少ない」児童が78.1%で、市平均より9.5ポイント、全国平均より15.4ポイントそれぞれ下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「知識及び技能」に関しては、市・全国ともに上回っている。「漢字の書き」の力は身につけているが、文章の特徴の理解や敬語の使い方は十分とは言えない。「読むこと」に関しても伸びがみられ、市・全国平均に近づいてきている。読み取り中心に授業改善を図ってきた成果である。一方、「書くこと」に関して課題があり、自分の考えが伝わるように工夫して表したり、読み取ったことに基づいて自分の考えをまとめたりする力に課題がみられる。

〔算数〕「データの活用」領域は、市平均を上回り、「数と計算」領域は、ほぼ、市・全国平均に達している。「データの活用」では、グラフのデータの読み取りはできている。しかし、読み取ったことから、見出した違いを表現する力が十分でない。「図形」領域では、図形の意味や性質は理解しているが、それらを使って問題を解決する力に課題がみられる。「変化と関係」領域では、割合の基礎的な知識が十分でなく、比例関係を用いて問題解決をする力にも課題がみられる。問題解決にあたって、自分の考えをもって解決にあたり、考えを説明したり、友だちの考えを知ったりして学習内容を習得していく必要がある。

質問紙調査より

「朝食を食べている(92.7%)」「同じくらいの時刻に寝ている(87.8%)」「同じくらいの時間に起きている(92.7%)」に肯定的な回答をする児童の割合が高く、基本的な生活習慣は問題なくできている。

「学校に行くのは楽しい(92.7%)」児童が多い。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている(83%)」に肯定的な回答をする児童の割合は高く、話し合い活動を中心に取り組んできた成果である。

「自分には良いところがある(85.3%)」と回答する児童は昨年度より向上している。また、「将来の夢や目標をもっている(82.9%)」と回答する児童の割合も高い。これらのことから、自分を大切に、目標を持って前向きに過ごしているといえる。一方、全児童が、「人が困っているときは進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と考えており、他者を大事にする心が育っているといえる。これらのことから、自他ともに大切にしようとする心が育ってきているといえる。

「学校の授業以外の普段の1日の学習時間」が少ない。「読書が好き」な児童は約6割で、「学校の授業以外の普段の読書時間」も少ない。読書は学習の土台を形成する大事な要素であるので、読書環境を改善していく必要がある。読書を含めて、自ら学ぶ子どもの育成を今後も図っていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

国語科においては、漢字の力や語彙力といった基礎的な知識・技能の定着を更に図るとともに、「書く」力を伸ばしていく。読み取ったことや自分の考えや感じたことを「書く」活動を多く取り入れていく。一言感想や、一行日記等、により、書くことへの抵抗感を低くし、徐々に書く量を増やしていく。「読む」力の育成を継続していく。

算数科においては、身につけた知識・技能を用いて、自分なりに問題解決に当たり、考えの交流を通して、「数学的な見方・考え方」を育てていく。自らの考えを周りに伝える力を育てていく。

教育活動全般を通して、自分の思いや考えをもち、それらを図や表などに表したりして相手を意識して他者に伝えること、他者の意見や考え、思いに耳を傾けること、どちらも大切に学習に取り組ませたい。伝え合う活動をあらゆる場面で取り入れる。

質問紙調査の結果から、読書時間が少ないことがわかる。読書時間を確保し、読書への興味関心を高めることで、学力の基礎(語彙力・読解力・表現力・思考力・想像力等)を育み、心を耕していきたい。そのために、朝の読書タイムの活性化、読み聞かせ、蔵書の充実、等、読書環境整備を学校司書と連携しながら進めていきたい。また、家庭での学習時間も短く、自ら学習に取り組む習慣がつくよう、家庭との連携を図りながら進めていく。

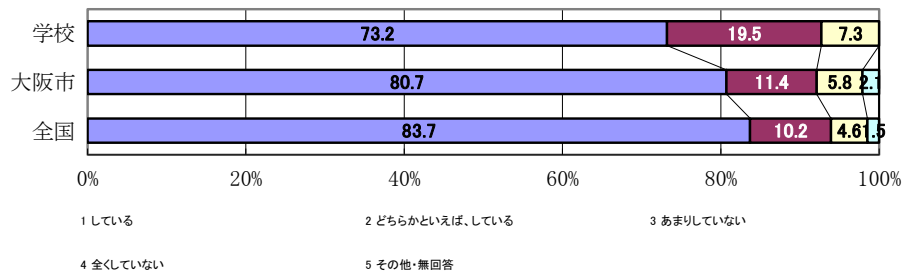
自他ともに大切にしようとする心が育っているため、この心を醸成するよう、仲間とともに活動する機会を増やし、充実していく。

児童質問紙より

質問番号
質問事項

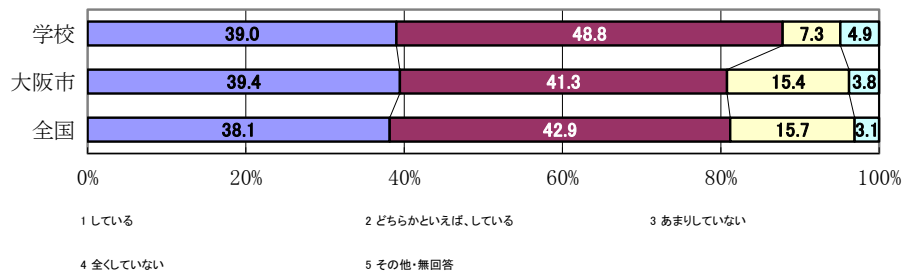
1

朝食を毎日食べている



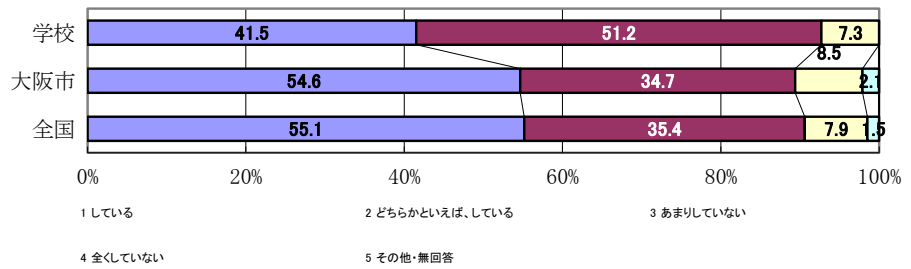
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



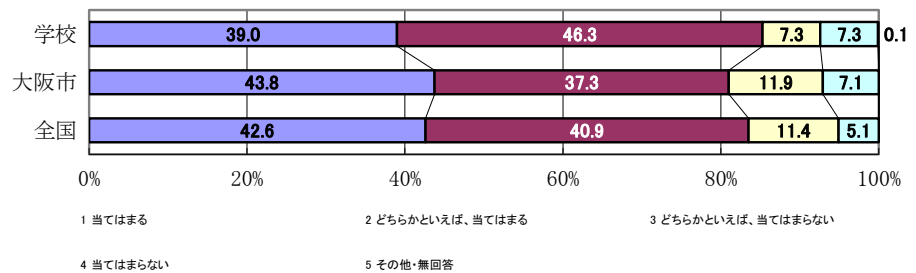
3

毎日、同じくらいの時刻に起きている



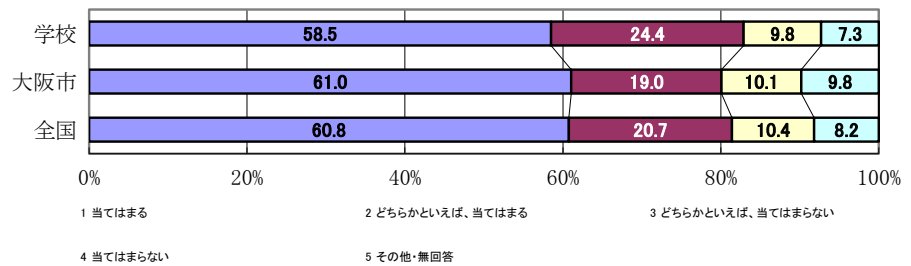
4

自分には、よいところがあると思う



7

将来の夢や目標を持っている



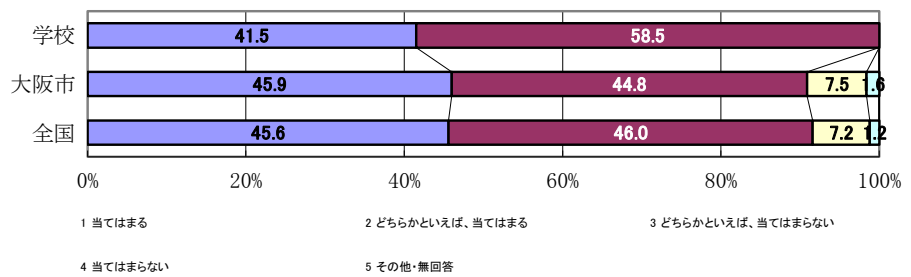
児童質問紙より

質問番号

質問事項

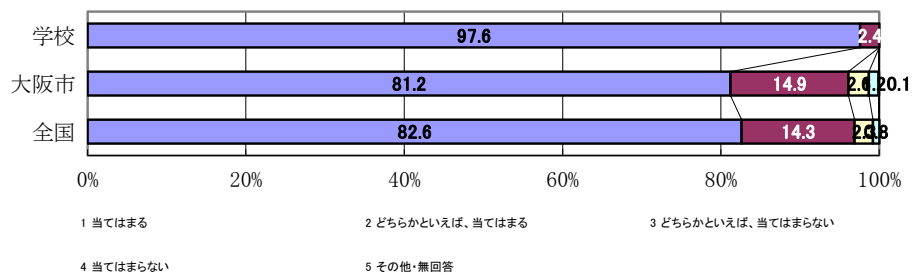
8

人が困っているときは、進んで
助けている



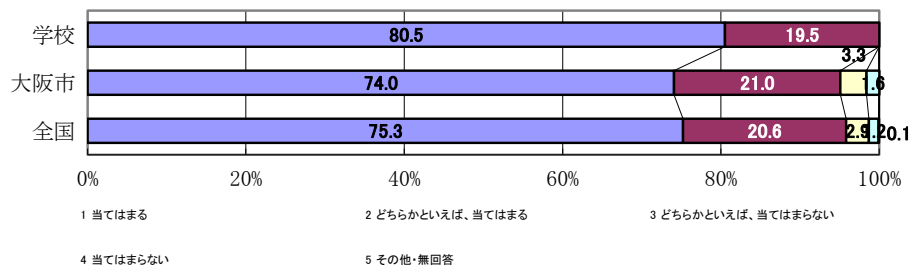
9

いじめは、どんな理由があっても
いけなないことだと思う



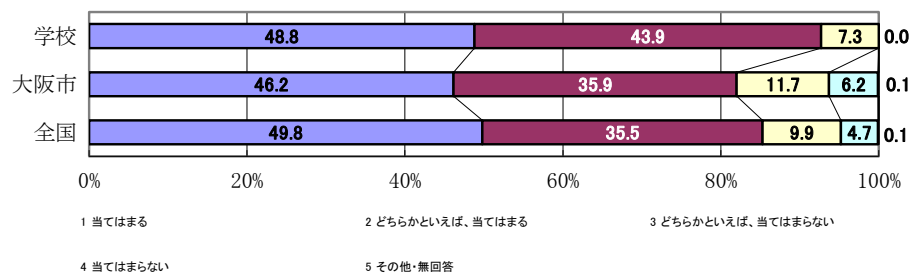
11

人の役に立つ人間になりたい
と思う



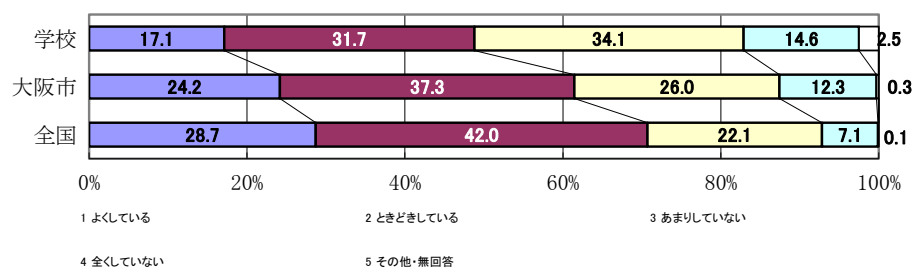
12

学校に行くのは楽しいと思う



16

家で自分で計画を立てて勉強
をしていますか(学校の授業の
予習や復習を含みます)



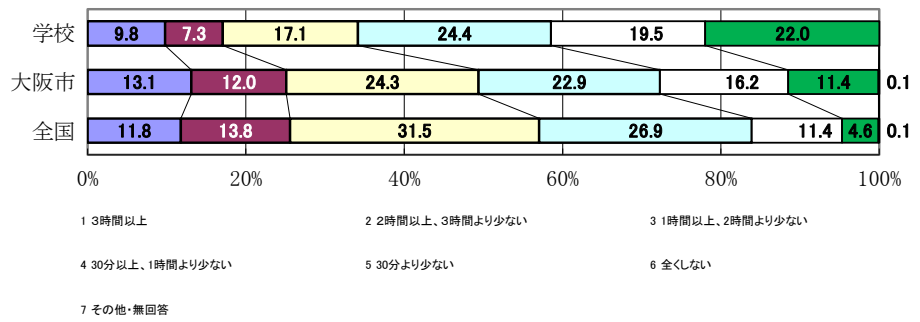
児童質問紙より

質問番号

質問事項

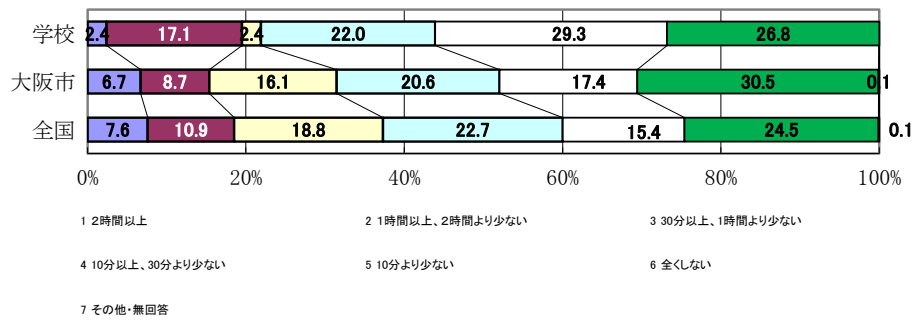
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）



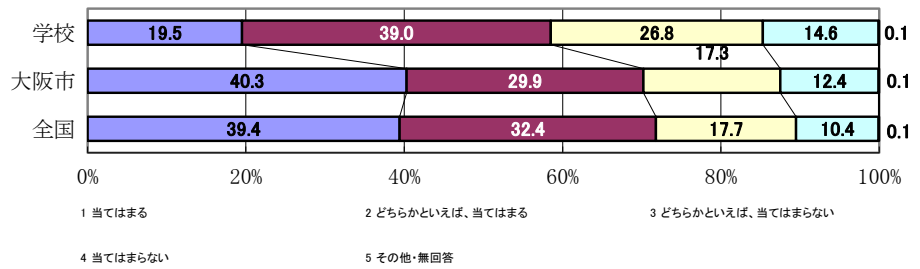
20

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）



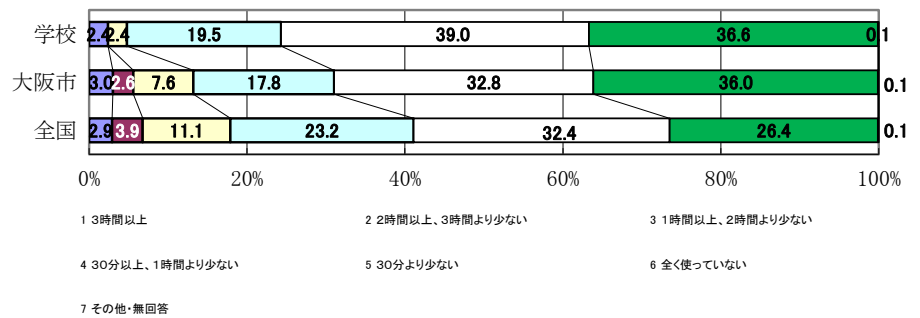
24

読書は好きですか



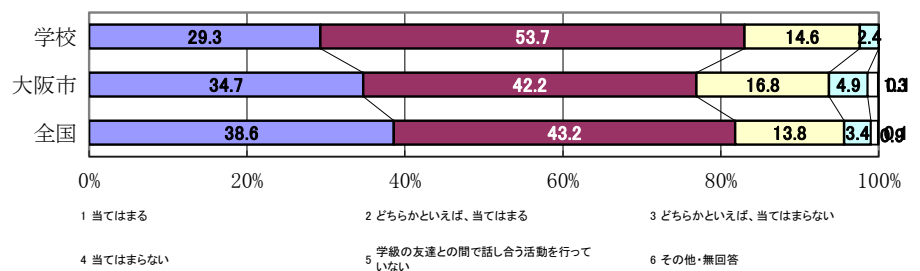
31

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）



36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

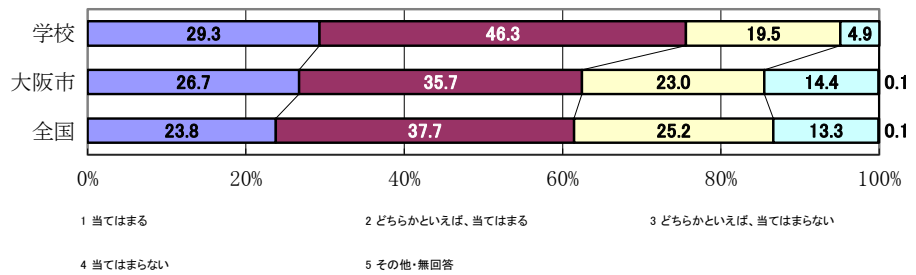


児童質問紙より

質問番号
質問事項

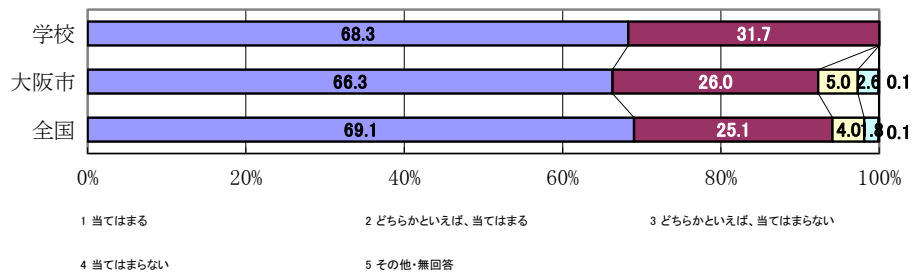
43

国語の勉強は好きだ



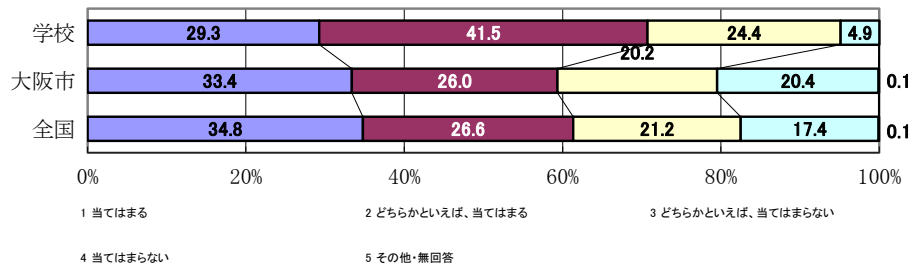
44

国語の勉強は大切だ



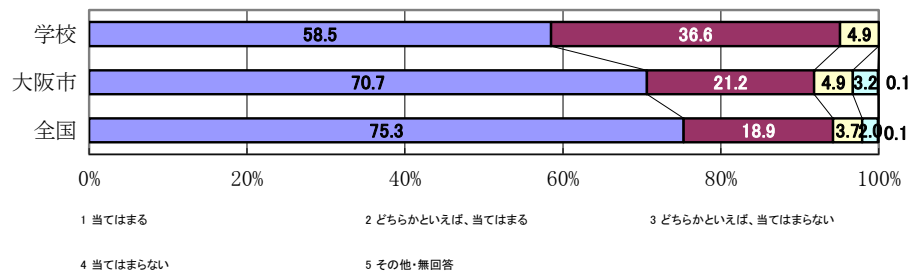
51

算数の勉強は好きだ



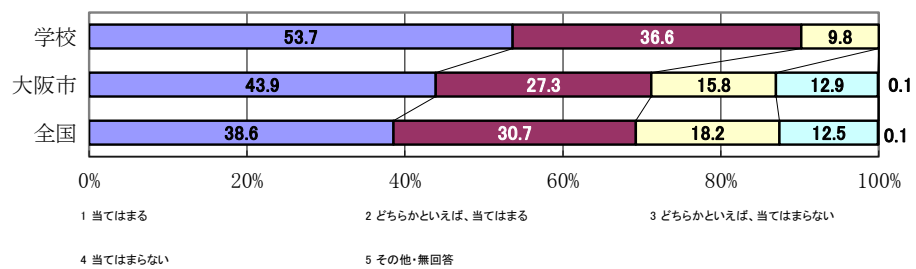
52

算数の勉強は大切だ



55

英語の勉強は好きだ



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

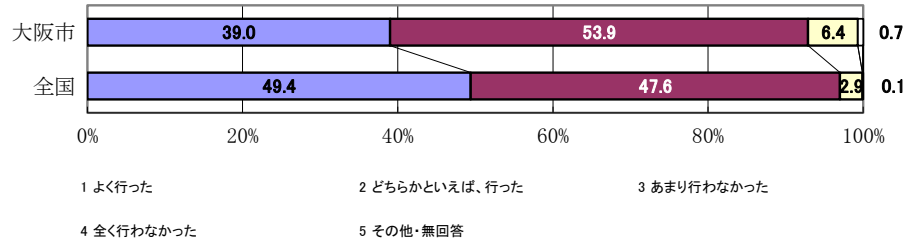
質問番号

質問事項

12

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

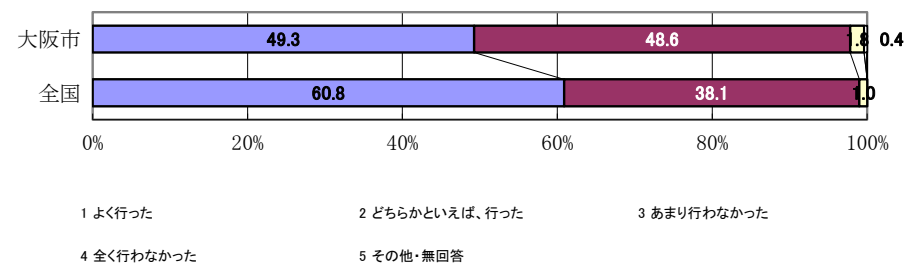
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

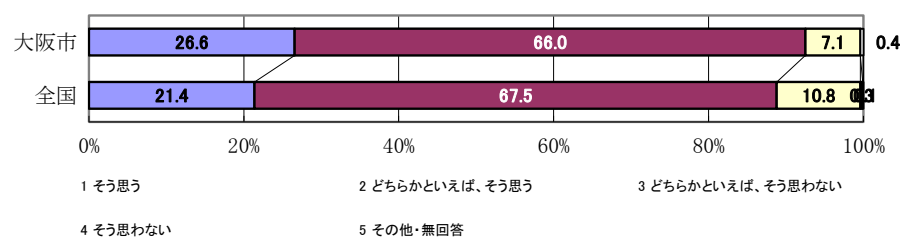
学校 「よく行った」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる

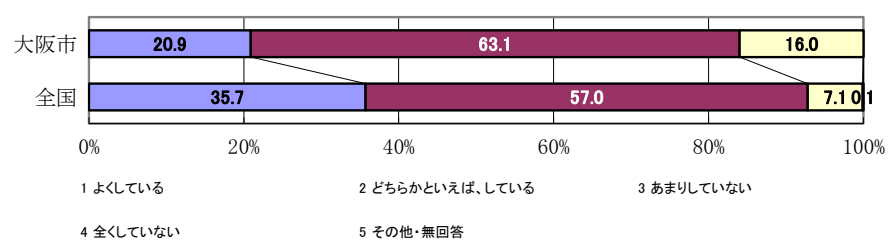
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている

学校 「どちらかといえば、している」を選択



29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

